

中国新聞
H19.9.14

地元業者 言い伝えを証明

鞆で酒命保 一接待 ペリー

幕末に黒船で来航した

米国のペリー提督が、同

時期から福山市鞆町に伝

わる特産の保命酒でもて

なされていた記録が、十

三日までに見つかった。

同町の保命酒店店主ら

が、ペリーゆかりの静岡

県下田市の図書館で当時

の文献を収録した本を発

見。これまでの言い伝え

が裏付けられた形で、保

命酒のPRにも弾みがつ

きそうだ。(赤江裕紀)

「下田御用日記」に記録

ペリーを保命酒でもて正弘が出した保命酒を飲んだとの説もあったが、真偽は分からなかった。

二年前、鞆町の保命酒奉行所に書かせたという「下田御用日記」の中にある。日米和親条約締結後の嘉永七年（一八五四年）三月二十四日の日記に、ペリーほか七人を下田市の了仙寺で接待し、保命酒や菓子でもてなしと記している。

ペリーをめぐってはこれまで、同年の別の宴席で、老中の福山藩主阿部

材料卸専務の中島基晴さん（40）が下田市の祭りでペリーの子孫に保命酒を提供。その縁でペリーの所在は不明という。

広島県立歴史博物館（福山市）の西村直城主任学芸員は「ペリーの日記にも了仙寺の接待の様

ククリック

保命酒 もち米、こう

じ、焼酎を原料にしたみ

りんにジオウ、カンゾウ

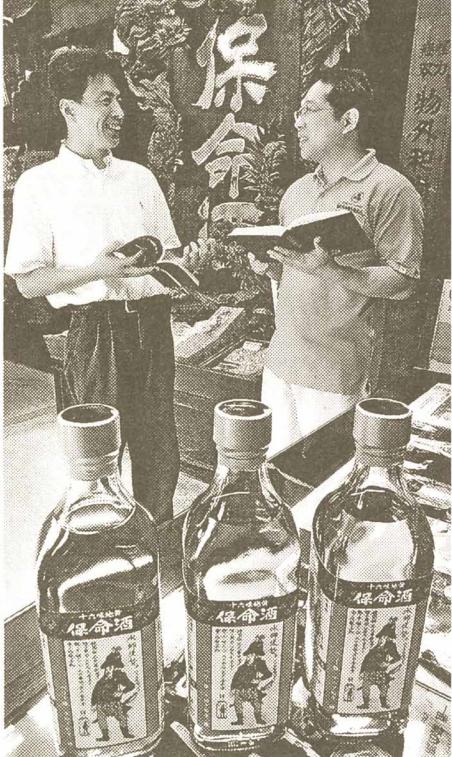
などハーブ類を漬け込ん

だ甘みのある薬味酒。

戸初期に大阪から鞆町に移

つてきた中村吉兵衛が考案し、中村家が独自販売

していたが明治期に廃業した。現在は明治以降に醸造を始めた福山市鞆町の4業者が製造販売して



取り寄せた本を読む岡本さんと中島さん。手前はペリーをラベルにあしらった保命酒の販売も始めた。
あしらった保命酒

（撮影・天富智則）

子が書かれている。発見された記録は当時、保命酒が広く流通していた証拠」と分析。岡本さんは「今後は歴史をもっと掘り下げ、保命酒のアピールに役立てたい」と期待している。

ラベルにあしらった保命酒の販売も始めた。
そしてこの夏、「下田御用日記」を収めた本「江川坦庵全集別巻」を下田市内の図書館から借りて、記録を確認。江川家の資料を所蔵する財団法人江川文庫（静岡県伊豆の国市）によると現在、原本の所在は不明という。